

令和4年度 学校推薦型選抜 小論文（第一部 商経学科）解答例

問1（40点）

【採点のポイント】

- ・課題文に基づき、アリストテレスが示した正義の概念について要約できているか。
- ・論理的に説明できているか。

【解答例】

アリストテレスによれば、正義は二種類に分類できる。第一の正義は、一般的正義と名づけられるものであり、「法に従うこと」、「遵法的であること」の徳を意味するものである。第二の正義は、特殊的正義である。これは、具体的な場面における正義であり、「等しさ」にかかわる形式的原理である。ただし、「等しさ」の在り方には、次の二つがある。

一つ目は、幾何学的な等しさであり、対照される二つのものの比率が等しいということである。これは、協働作業の成果を参加者のあいだで分配するような場合にかかわる。この「等しさ」が成り立っている時、「分配的正義」が存在していると言える。二つ目は、算術的な等しさである。刑事処罰などで犯された罪の重さ X と科せられるべき罰 Y の重さは等しくなければならない。アリストテレスはこれを「匡正的正義」と呼んだ。また、この原理は、交換されるもの X の価値と、同じく交換されるもの Y の価値が等しくなければならないということから、「交換的正義」とも呼ばれる。(426字)

問2（60点）

【採点のポイント】

- ・「幾何学的な等しさ」と「算術的な等しさ」について、自分の経験や社会における出来事を挙げながら説明できているか。
- ・論理的に考えを記述できているか。

【解答例】

「幾何学的な等しさ」と「算術的な等しさ」について、私が中学・高校の6年間にわたって取り組んできたバレーボール部という事例を通じて考えてみたい。

私が所属するバレーボール部が重要な大会で優勝でき、自分もレギュラーの一員として十分に貢献できたとする。優勝後に監督からメンバーの一人一人が褒められるときに、自分だけ声を掛けられなかったらとても落胆するだろう。同様に、全校集会で優勝報告をして部のメンバー全員で壇上に上がり表彰を受けるときに、自分だけが壇上に上がれないという扱いを受けたら、不公平を感じるに違いない。このような例は、協働作業の成果を参加者のあいだで分配するときの等しさである、「幾何学的な等しさ」に反しているといえる。

また、友人と一緒に部活をサボったときに、特別な理由もないのに友人は許され、私だけレギュラーを

はく奪されるなどの罰を受けた場合には、不公平が生じているといえる。さらに、練習のなかで軽い失敗をした時に、それに対して重い罰を受けたりすれば、私が犯した失敗に対する罰の重さが釣り合っていないと思う。このように罪の重さと罰の重さが不公平な場合は、「算術的な等しさ」に反していると考えられる。(502字)